

## NSネット 相互評価（ピアレビュー）の実施結果について

平成13年9月14日  
北陸電力株式会社

当社は、平成13年8月7日から10日までの間、志賀原子力発電所においてニュークリアセイフティーネットワーク（NSネット）による相互評価（ピアレビュー）を受けておりましたが、本日、その結果を取りまとめた報告書をNSネットから受領いたしました。

報告書（7.主な結論）によれば、「原子力安全の面で直ちに改善措置を施さなければ重大な事故の発生に繋がるような項目は見出されず、また、本発電所においては、所長をはじめ全発電所員が協力会社も含め一体となって、原子力安全確保を継続・強化していくために真剣にかつ実直に取り組んでいる実態が確認された。」との評価を受けています。

当社といたしましては、報告書の内容を確認し、「良好事例」の維持・継続、ひいては一層のレベルアップを図るとともに、「改善提案」については十分な検討を行った上積極的に対応を行い、志賀原子力発電所の安全・安定運転に役立てて参りたいと考えております。

なお、相互評価（ピアレビュー）の報告書は、本日17時にNSネットのホームページに掲載される予定です。

（NSネットホームページアドレス <http://www.nsnet.gr.jp>）

別紙：主な良好事例と改善提案

参考：NSネットの概要

以 上

## 主な良好事例と改善提案

報告書では、良好事例21件と改善提案4件が摘出されています。報告書（7. 主な結論）によれば、主な良好事例と主な改善提案は次のとおりです。

### 1. 主な良好事例（\*1）

#### ・ SQUP委員会による総合的安全文化醸成活動の展開

JCO事故後早期に「SQUP(Safety & Quality Up)委員会」を設置し意識改革、教育訓練等多岐に亘る分科会活動を展開するとともに、この活動の一環として安全文化の醸成及び社員の倫理意識の維持・向上のため「北陸電力原子力部門行動宣言」を制定し、所員への周知・浸透が図られている。

#### ・ 運転パラメータ情報の調査検討処理用フォーマットの運用

運転監視上重要なパラメータについては、予防保全の観点から定期的（3カ月に1回）にデータ（約2,000点）採取を行い、長期的傾向を監視している。また、前回データと比較して変動等がある場合には、関係課との間で情報の共有化及び調査検討処理を行うための「フォーマット」を運用しており、異常徴候の早期発見及び予防保全対策への活用に効果が期待できる。

#### ・ 放射性廃棄物低減化のための各種の工夫

雑固体廃棄物は、「雑固体廃棄物仕分け区分表」によって30種類に区分され、それぞれビニール袋に収納される。ビニール袋に収納された雑固体廃棄物は線量率に応じて高、中、低レベルに色分けされた「雑固体廃棄物標示」（複写式で、内容物、作業件名、線量率、発生日等を記入）の1枚が袋に添付され、残りの1枚が安全管理課に保管されている。安全管理課はこの情報をデータベース化し、雑固体廃棄物の発生源の解析や焼却処理の効率化に活用開始している。これにより、放射性廃棄物の低減化が図られている。

#### ・ 社内LAN上への「トラブル情報」データベースの設置

国内外のトラブル事例を検討し、事象、原因、対策及び水平展開内容をまとめた「トラブル情報管理シート」及び「トラブル反映実施報告書」を、社内LAN上にデータベース化し、検索機能がわかりやすく組み立てられ、所員への周知はもとより、教育や作業前の事例検討に役立てられている。

## 2. 主な改善提案（\*2）

### ・ **「提言箱制度」の更なる促進**

安全文化の更なる向上活動の一環として各種提案制度を設けており、これらのジャンルに属さない提案についても何でも提案できる制度として「提言箱制度」を導入しているが、提案数が少ないため、提言箱へ投函する方式に加えて、例えば、社内LAN方式を追加するなど提案できる方法を増やす工夫を検討することが望ましい。

### ・ **運転情報に関する電子化活用範囲の拡大**

本発電所では、当直長間の「引継日誌」を電子化しており、発電課内における情報の共有化、迅速な伝達、及び業務の効率化に効果を上げているが、今後、例えば「プラント起動・停止曲線（実績）」などへの範囲拡大についても検討することが望ましい。

### ・ **放射線管理に関する協力会社との情報交換の更なる推進**

被ばく低減化等を目的とした「放射線管理部会」が設置されている。この部会は、協力会社の放射線管理責任者もメンバーとして参加しており、放射線管理全般にわたって協議されている。この部会は、定検期間中は月1回、それ以外は2ヵ月に1回の頻度で開催されている。しかし、定検期間中は系統状態の変化や作業の集中があることから、この部会の目的をさらに確実に達成していくために、作業の集中度合い等に応じて開催頻度を増やす等、協力会社社員との頻繁な情報交換等に努めることが望ましい。

\* 1 ) 良好事例：本発電所の安全確保活動のうち、的確かつ効果的で独自性のある手法を取り入れている事例であって、NSネットの会員さらには原子力産業界に広く伝えたい、優れた事例。

\* 2 ) 改善提案：原子力の安全性を最高水準へと目指す視点から、原子力産業界でのベストプラクティスに照らして、本発電所の安全確保活動をさらに向上・改善させるための提案等を示したもの。そのため、現状の活動が原子力産業界の一般的な水準以上であっても、改善提案の対象として取り上げられる場合がある。

以 上

## NSネットの概要

### 1．目的，設立時期

NSネット（ニュークリアセイフティーネットワーク）は，平成11年9月に発生した東海村のウラン加工施設における臨界事故を契機に，このような事故を二度と起こしてはならないとの決意のもと，国内の原子力産業界の事業者や研究機関などが一体となって，原子力産業全体で安全文化を共有し原子力安全の確保を徹底することを目的として，平成11年12月に設立。

### 2．加盟会員

平成13年6月現在，36会員（電力関係14社，プラント・燃料加工メーカー他19社，研究機関3機関）。

### 3．事業の概要

「原子力安全文化の普及」（安全キャラバンを組んでの巡回実施），「会員間の相互評価」（異業種間のピアレビュー），「原子力安全に関わる情報交換・発信」（インターネットによる広報活動）の3つが主要業務。

### 4．相互評価（ピアレビュー）の目的と実績

NSネットの会員が相互の事業所や組織の安全確保に関する取り組み状況をチェックしあい，原子力産業全体の安全レベルを高めることが目的。

平成12年4月の三菱原子燃料㈱に対する相互評価を皮切りに，現在まで志賀原子力発電所を含めて15事業所で実施されている。

### 5．今回の志賀原子力発電所におけるNSネット相互評価の実施概要

NSネット会員から選ばれた各分野の専門知識を有するメンバー（三菱マテリアル㈱，日本原子力発電㈱，関西電力㈱，富士電機㈱，ニュークリア・デベロップメント㈱，NSネット事務局から各1名）が，「組織・運営」，「緊急時対策」，「教育・訓練」，「運転・保守」，「放射線防護」，「重要課題対応」の6つの分野における原子力安全に関する共通テーマに関し，志賀原子力発電所においてどのように業務が遂行されているか等について，現場観察，書類確認，従業員との面談によって評価が実施された。